

令和8年度

海星中学校入学試験問題

－ 前期 －

国 語

(100点50分)

(注意事項)

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題は、13 ページまであります。
3. 問題冊子や解答用紙の印刷が見にくいときや、試験中にページのぬけ落ちなどに気付いた場合は、手をあげて先生に知らせなさい。
4. 試験開始の合図で解答用紙の受験番号のらんに受験番号をはっきりと記入しなさい。
5. 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
6. えんぴつまたはシャープペンシルを使用しなさい。
7. 試験終了の合図で筆記用具をおき、解答用紙を集め終わるまで席に着いていなさい。
8. 問題冊子は持ち帰ってよろしい。

1 次の文章Ⅰ・文章Ⅱを読んで、あとの各問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

「孤独」は哲学において重要なテーマのひとつです。A 「孤独」について論じている哲学者は大勢います。そのなかで私がおすすめたいたいののは、ドイツの哲学者アルトウル・ショーペンハウアーです。彼は『幸福について』という本の中で、かなりのページを割いて「孤独にあるときのすばらしさ」を書いていきます。たとえばこんな文章があります。

全く自己自身のあり方に生きていて差し支えないのは、独りである間だけである。だから、孤独を愛さない者は、自由を愛さない者と言すべきだ。

これは言い換えれば、A ということ。たしかに誰かといっしょにいるときは、それが家族や大親友であったとしても、100%自由に振る舞うことはできません、ショーペンハウアーにこんなふうにも言ってもらえると、「ひとりでいるいま、このとき、自分自由を満喫しているんだ」と思えてきます。

また「孤独を愛する」ショーペンハウアーは、社交性について、独特の言い方でイツトウリョウダンにしています。

寒さが厳しいときに、人々が押し合いへし合って体を暖める。社交はこれに似たもので、人間がお互いに触れあって精神的に暖め合う働きだともみることができる。けれども、自らおおいに精神的な温かみをもつ人は、このような集団を作る必要がない。

知的スライジューンの高い人は、つまり孤独によって二重の利益を与えられる。一つは、自分自身を相手にしているという利益であり、もう一つは、他人を相手としていないという利益である。

ほかに、「人の社交性はその知性的な価値にほぼ反比例している」とか、「孤独はおよそ優れた人々の運命的な持ち分なのだ」といったことも言っています。

ここまで言い切るのはいすごい！かなり偏った見方なのですが、哲学者はどこまでも物事の本質に迫ろうとするので、ときにこういう言い方になるのでしょう。ともあれ「自分は社交性がなくて、友だちが少なく、孤独だ」と悩む人もあろうかと思いますが、ショーペンハウアーはそれを喜ぶべきだと言っていることを思い出してください。非社交的であることは、B 優れた資質なのです。

【文章Ⅱ】

若い人たちの間で、よく「リア充」という言葉が使われます。リアル、**C** 現実生活が充実している、という意味です。

具体的には、やりがいのある仕事についている、独身者は恋人に恵まれていて、妻帯者は温かい家庭を築いている、食事や旅行などに楽しめる友だちがたくさんいる、などの条件を満たす人のこと。おもに「ネット住人」と呼ばれる人たちが、自身の現実の生活がぱっとしないことを自虐的に語るときに使ったのが始まりのようです。

いまはもつと広がりを見せていて、ネット住人でなくとも、リア充をうらやむコメントがいろんなところで聞かれます。さほどアクティブでもなく、派手でもなく、ごくふつうに地味に暮らす大半の人たちにとって、リア充はある種のがれだからでしょう。

それはいいんです。リア充を欲しがらない人など、誰もいません。でもリア充が欲しくても思うようにならないからと引け目を感じたり、「リア充仲間」に入れないせいで孤独感に苦しめられたりするのはおかしい。そういう人には「単独者の道」があることを知っていただきたいと思います。

私の言う「単独者の道」とは、孤独に親しみ、孤独を愛した先達たち——いまふうによれば、「リア充プロレタリアート」みたいな人たちが、

「リア充が何だっ！ 人生をどう楽しむかは、個人の自由じゃないか。リア充がどうであれ、ひとりで過ごす時間こそがすばらしいんだ」と声をあげ、「孤独革命」のようなものを起こした、そこから切り拓かれた道を意味します。

群れなければ生きられなかった大昔、また幸せになるためには結婚して家庭を築くことがマストだった昔は、「獣道」だったところが、時代が進んで孤独を謳歌する人たちが百人、千人、一万人と歩いたおかげで整備され、「単独者の道」となったのです。

ここでは、その貢献者ともいうべき先達として、種田山頭火、宮沢賢治、三島由紀夫の三人を紹介します。短いフレーズに単独者として生きる心意気、美しさのようなものが表現されています。

■種田山頭火——ひとりだからこそ他者とつながれる

種田山頭火は出家して全国を漂泊し、自由律の句を詠んだことで有名です。

家を捨て、妻子と別れ、俗世の一切を断ち切つて「行乞流転の旅」を続けた、その生き方がまさに「単独者」。また、従来当たり前に踏襲されてきた俳句の五・七・五の形式を破り、字数にこだわらずに自由に句作したところにも「単独者」の風格が感じられます。

一般的に孤独な人というのは、「どうせ自分なんて思考」があつて、自己肯定感が低いものですが、山頭火はそのイメージを覆します。時に自虐的になることもありませんが、生き方は基本、明るくて前向き。強い自己肯定力に支えられて、思い通りの生をまっとうしたように思えます。

そのことを象徴する句がこれ。

蜘蛛は網張る 私は私を肯定する

自分を肯定して生きる決意が込められています。そのことを、網を張つて過ごす蜘蛛の命の営みに重ねているところが、実に山頭火らしいですね。

山頭火の句には虫や鳥や草などがたくさん出てきます。自然のなかで暮らしながら、小さいもの、弱いものにやさしく温かい目を向けていたのでしょうか。ほぼほぼひとりきりであつたことで、逆に自然のなかで共生するほかの生き物とつながりやすい環境が、心に形成されたのかもかもしれません。

ひとりでいることは寂しいけれど、心地よくもある——山頭火の句を読むと、「孤独はさまざまな情感をもたらしてくれるな」と実感します。不思議とひとりの時間が愛おしく思えてくる句、生きる元気が湧いてくる句など、いくつか紹介しましょう。

(ア) 鴉啼いてわたしも一人

(イ) あるがまま雑草として芽をふく

(ウ) 秋風、行きたい方へ行けるところまで

(エ) ふくろうはふくろうで わたしはわたしでねむれない

(オ) 酔うてこほろぎと寝てゐたよ

(カ) やっぱり一人はさみしい枯草

(キ) やっぱり一人がよろしい雑草

(ク) どうしようもないわたしが歩いている

(ケ) あたたかい白い飯あが在る

山頭火の句集はいろいろ出ていますし、ネットの青空文庫でも読めます。ぜひ手に取って、彼の孤独の世界に触れていただけるとよいかと思えます。

さいとうたかし
(齋藤孝『孤独を生きる』より 一部改)

(注) ・先達 …… 先にたつて案内する人。先輩。せんぱい。

・プロレタリアート …… もとは「労働者階級」という意味で、ここでは「リア充ではない人」という意味で使われている。

・マスト …… 欠かせないということ。

・種田山頭火、宮沢賢治、三島由紀夫 …… 種田山頭火は俳人（俳句を作る人）、宮沢賢治は詩人、三島由紀夫は小説家。宮沢賢治と三島由紀夫の記述はこの文章の後にある。

・漂泊 …… 居場所を決めず、さまようこと。

・自由律 …… 五七五の音数や季語にしばられない俳句のこと。

・行乞流転 …… 人々から食べ物を受け取りながら、各地をさまようこと。

問一 波線部 a～e のカタカナを漢字に直し、漢字の読みをひらがなで答えさい。

a イットウリョウダン b スイジュン c 革命 d 営（送りがなは不要です） e 共生

問二 空らん A C に当てはまる言葉を、次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ しかし ウ だから エ さて オ むしろ

問三 空らん ア に当てはまる言葉を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「人はひとりである時間に色々な事を考える」 イ 「人はひとりである時間だけ自由でいられる」
ウ 「人はひとりである時間を減らすべきである」 エ 「人はひとりである時間を孤独とは言わない」

問四 ぼう線部①「それ」が指す内容を、本文中の言葉を使って十字程度で答えなさい。

問五 【文章Ⅰ】におけるショーペンハウアーの考え方と同じ内容の表現を、【文章Ⅱ】の中から二十字以内で抜き出しなさい。

問六 【文章Ⅱ】の二重ぼう線部の俳句における作者の思いとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一匹で孤独に生きている蜘蛛を見て、自分は孤独にならないよう生きていこうという決意。
イ 蜘蛛が網を張って獲物をとらえるように、生活のためには俳句以外のこともしようという決意。
ウ 同じ場所に網を張る蜘蛛と違い、自分は好きな所に自分の意志で行こうという決意。
エ 蜘蛛が自然に生きている姿を見て、自分もあるがままで生きていこうという決意。

問七 ぼう線部②「実に山頭火らしい」とあるが、筆者がそう書いた理由を、本文中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問八 【文章Ⅱ】の俳句（カ）と（キ）からは、作者の「孤独」に対するどのような考え方が分かるか。【文章Ⅱ】の内容をふまえて、四十字以内で説明しなさい。

問九

【文章Ⅱ】の俳句を読んだ生徒たちの意見の中で正しいものを、次のア～エの中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 生徒A「俳句（ア）（エ）は、動物と比べて自分の方が幸せだとして、孤独を乗り越える作者の姿勢が描かれているよ。」
- イ 生徒B「俳句（イ）は、自然の中であるがままに生きていこうとする、作者の前向きな気持ちが表れているね。」
- ウ 生徒C「俳句（オ）は、虫と一緒に自然の中で寝てしまうほど酔っぱらった自分に対する反省が込められているね。」
- エ 生徒D「俳句（ケ）は、ささやかなことに幸せを感じて、生きることを肯定する作者の思想が表れているね。」

2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

（高校生の紗英は生け花教室に通っており、そこで再会した中学時代の同級生の朝倉くんは見事な花を活けていた。紗英が感想を伝えると、彼は「いや、まだまだだよ」と答えた。本文はその後の場面である。）

生け花教室で次に朝倉くんと会ったときに私は訊いた。

「まだまだ、って、どうしてわかるの」

え、と朝倉くんが顔を上げる。

「こないだ、まだまだだっていったよね。どうしてそう思うの。どうしてわかるの。どうしたらまだまだじゃなくなるの」
まだまだ届かない、思うようには活けられない。朝倉くんは自分の花をそう評した。

「ちよつと、紗英」

千尋が私の左肘をつついて止めようとしている。千尋は親切だから、私が突っ走り気味になると上手に制御してくれる。この生け花教室を紹介してくれたのも千尋だった。

「わかるときはわかるんじゃないかな」

真面目な声で朝倉くんはいった。それからちよつと笑った。

（謙遜）
「謙遜だとは考えなかったんだね」

「え、謙遜だったの？」

私が驚くと、冗談だよ、という。

「花を活けると気持ちがいいだろ。思った通りに活けられると、気持ちのよさが持続する。そのやり方をここに習いに来てるんだ。みんなもそうなんじゃないの」

「なるほど」

私は感心して何度もうなずいた。

「気持ちのよさが持続する。なるほどね」

朝倉くんは、やめて、恥ずかしいから、といった。

「なるほど。気持ちのよさを持続するために」

うなずきながらも一度私がいようと、朝倉くんはしっしつと追い払う真似をした。

思った通りに活ける、と朝倉くんはいったけれど、私の「思った通り」じゃだめなんだと思う。私なんかの思ったところを超えてあるのが花だ。そう朝倉くんの花が教えてくれている。

じゃあ、なるべくなんにも考えないようにして活かしてみよう。

その考えは、しかし間違いだっらしい。

「津川さん、真面目におやりなさい」

先生は巡回してきて私の花を見るなりそういった。

「しようがないわねえ」

いつもなら、注意されることはあっても先生の目はあたたかい。しようがないわねえ、と笑っている。でも、今日は違った。基本形を逸脱したためちやくちやな花がよほどAに据えかねたらしく、剣山から私の花をぐさぐさ抜いた。

「どういうつもりなの」

声は怒りを抑えている。周囲の目がこちらに集まっている。

「いつもの津川さんじゃないわね。遊び半分で活けるのは、花を裏切ったことになるの」

すみません、と私は謝った。遊び半分なんかじゃなく、真剣に考えたらこうなったんだけど、普段は穏やかな先生の剣幕を見たらやっぱりそれはいえなかった。先生は花を全部抜くと大きくため息をついて、ふいと立ち去ってしまった。

千尋と目が合う。どんまい、と目だけで笑ってくれる。もう一度水切りをしておいて、少し茎の短くなってしまった花を見る。またいつもみたいに、習った型の通り順番に差していくんだろうか。型通りなら誰が活かしても同じじゃないか。私はこっそり辺りを見まわす。みんな

な、おとなしく従っているのはなぜなんだろう。——そんなふう（注）に思うなんて不遜（注）だし傲慢（注）だ。だけど急に、目の前の花（注）が色褪（あ）せて見える。もしかしたら活け花はどうしても私がやらなきゃならないことじゃないのかもしれない。

このまま塾（じゅく）に行くという千尋と別れて帰ろうとしたら、市民センターの出口のところに朝倉くんがいた。自然にふたり並んで歩き出す。「どうして私を待ってたの、とか訊（き）かないか普通」

朝倉くんがいうので初めて気がついた。

「そっか、朝倉くん、あたしのこと待っててくれたんだ」

「……いいよなあ、さえこは」

さえこ。懐（なつ）かしい呼び名だ。久しぶりに聞いた。さえこ、さえこ、と中学のクラスメイトは呼んだ。ほんとうの名前は紗英なのに、そこになぜか子をつけて、紗英子、それが私の愛称（あいしょう）だった。紗英と呼び捨てにするほど親しくない同級生たちにとって、子をつけるだけでフェイクになる。紗英子なら呼べる。そういうことらしい。彼らは私を呼びたかったのだ。さえこ、さえこ、と気軽に愛称で呼べて、さえこはいいよなあ、なんていえる存在が欲しかったんだと思う。事実、私は一日に何度も名前を呼ばれ、さえこ、さえこ、と手招きされる。さえこはいいね、さえこはいいよなあ。何がいいのかよくわからないけど、みんなにそういわれるのがこそばゆくて、うふふ、と笑う。そうすると彼らはいよいよもって、いいよなあ、と繰り返す。

「さっきの、先生に注意されてた花、見たよ。びっくりした。あれ、遊んでたんじゃないよな、確信犯（しんぱん）だよな」
うーん、と私は言葉を濁（にご）す。

「自分でもどうしたいんだかわからなくなっちゃった」

「それもわかった、あの花見たら」

朝倉くんはそういつて笑う。

「やりたいことはなんとなく伝わってきた。面白いと思ったよ。でも、何百年もかけて磨（みが）かれてきた技に立ち向かおうと思ったら、足場が必要だろ。いきなり自己流（た）じゃ太刀打ちできない」

市民センターを出ると陽射しが強い。自転車置き場まで並んで歩く。

「あの先生は、正当に磨かれてきた技を継いできたひとだと俺は思ってる。頭は少々固いけど、習う価値はあると思うよ。だけどさえこがどう思うかは、さえこ次第だ」

「あたしはべつに」

「べつに、やめようとは思ってない？」

「うん」

嘘をついた。やめてもいいかな、とちよつと思っていた。曲がりなりにも活けた花を有無をいわず全部抜かれたらやつぱりめげる。

でも、朝倉くんが笑顔になった。

「そうか、よかった。せつかくなんだから、やめるなよ」

「ありがとう」

手を振って別れ、すぐに朝倉くんは反対方向へ走り出す。私は桜並木のほうへ自転車をゆっくり漕ぎ出しながら、朝倉くんの「せつかくだから」を考える。せつかく始めたんだから、やめるなよ。せつかく面白くなってきたんだから、やめるなよ。せつかく会えるんだから、やめるなよ。うん、これかな。私はいちばん自分に都合のいいフレーズを選んで口の中で繰り返す。せつかく会えるんだから、やめるなよ。うふふ、と笑みがこぼれる。

(宮下奈都『まだまだ、』より 一部改)

(注)・謙遜……自分の能力をひかえめに表現すること。

・不遜……思い上がったふるまいのこと。

・傲慢……思い上がって他人を見下すこと。

問一 ぼう線部①「しっしつと追い払う真似をした」の根底にある感情を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 憎しみ イ 怒り ウ 照れ エ 悲しみ オ いらだち

問二 ぼう線部②「真面目におやりなさい」とあるが、先生がこう言った理由を本文中の言葉を使って三十文字以内で答えなさい。

問三 空らん Aに入る、身体の一部を表す漢字一字を答えなさい。

問四 ぼう線部③「目の前の花が色褪せて見える」とあるが、その理由を四十五字以内で答えなさい。

問五 ぼう線部⑤「嘘をついた」とあるが、その理由を説明した次の文の空らんに入る内容を、十五字以内で答えなさい。

本当は生け花教室をやめてもいいと思っていたが、から。

問六 ぼう線部⑥「せっかく会えるんだから、やめるなよ」とあるが、ここでの紗英の考えの説明としてふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生け花の先生に会い、教えてもらえる良い環境にいるから、やめるのはもったいないということ。

イ 生け花教室は紗英と朝倉くんが会うことができる場所だから、やめるのはもったいないということ。

ウ 紗英にとって一番の友人である千尋に会える環境だから、生け花教室をやめるのはもったいないということ。

エ 少しずつ自分の生け花が理解できて、正しいやり方に会える生け花教室をやめるのはもったいないということ。

問七 本文中の表現に対する説明としてふさわしくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 会話を多用することで、登場人物の感情の動きが直接的に伝わり、共感しやすくなっている。

イ 「ぐさぐさ」という本来は刺す動作に用いられる擬音語をあえて使い、先生の怒りを表現している。

ウ 「活け花」という芸術への向き合い方を通じて、「私」の性格や考え方が分かるように書かれている。

エ 定期的に視点が変わることによって、「私」以外の登場人物の気持ちを読者に伝わりやすくなっている。

問八 ぼう線部④「確信犯」とあるが、この言葉を授業で習った生徒の作成したメモを読み、空らん正しい言葉を入れなさい。

言葉に関するメモ

「確信犯」

- 「悪いことだと知りつつ、わざとする行為」という意味でよく使われる
- 本来は「自分が正しいと思っ行って犯罪行為」という意味だと先生が教えてくれた

●他にそのような言葉はあるのか調べてみた

「失笑」

- 「笑いも出ないほどあきれ」の意味でよく使われる
- 本来は「こらえきれず、吹き出して笑うこと」という意味

「情けは人のためならず」

- 「情けをかけてもその人のためにならない」という意味でよく使われる
- 本来は「」という意味

3

次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の文の波線部がくわしく説明している部分を、ぼう線部の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 彼女の好きな庭の花がきれいに咲いた。
- ② あの日の思い出は日記に何度も書きとめた。
- ③ 隣の席の彼が立ち上がりはつきりと意見を述べた。
- ④ 箱の中に小学校の時に僕が描いた絵がしまわれていた。
- ⑤ その瞬間教室の空気が少しざわついた。

問二 次の①～③の文から主語と述語にあたる部分を、ぼう線部の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 私の父はゆつくりとその箱を開けた。
- ② 彼は「ありがとう」と少し震える声で言った。
- ③ 今日の晩ご飯は私の好きなカレーライスだ。

問題は以上です